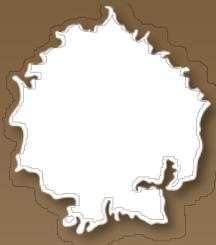
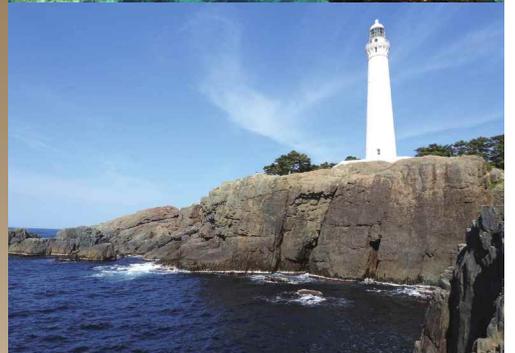
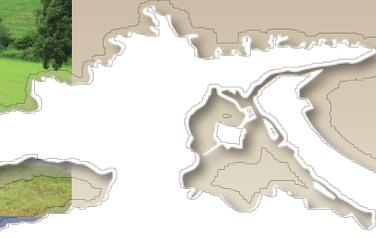
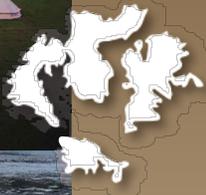


大山隠岐 国立公園 ステップアップ プログラム 2025



神話と山岳信仰が
息づく暮らしとともにある
山・島・海



大山隠岐国立公園満喫プロジェクト地域協議会

令和3(2021)年2月

目次

はじめに	1
1 現状分析	2
1. 1 大山隠岐国立公園の概要	2
1. 2 大山隠岐国立公園を訪れる利用者	4
(1) 全体の利用者数とアクセスの概況	4
(2) 日本人利用者の概況	5
(3) 外国人利用者の概況	7
1. 3 ステップアッププログラム 2020 の達成状況及び本プログラムへの継続性	10
1. 4 新型コロナウイルス感染症による影響	12
2 目標	15
2. 1 利用の推進を図る上でのテーマ（ブランディング・テーマ）	15
2. 2 ターゲットとする利用者層	15
2. 3 目標	16
2. 4 取組の方針	16
2. 5 指標	17
3 優先的な取組	19
3. 1 国立公園全域及び複数の地域をまたぐ取組	19
(1) 国立公園全域における優先的な取組	19
(2) 島根県内の4地域における優先的な取組	19
3. 2 大山蒜山三徳山地域で実施する取組	20
(1) 大山蒜山三徳山地域の概要	20
(2) 重点地区及び優先的な取組	21
(3) 地域全体又は重点地区以外での優先的な取組	23
3. 3 隠岐地域で実施する取組	24
(1) 隠岐地域の概要	24
(2) 重点地区及び優先的な取組	25
(3) 地域全体又は重点地区以外での優先的な取組	25
3. 4 島根半島東部地域で実施する取組	27
(1) 島根半島東部地域の概要	27
(2) 重点地区及び優先的な取組	28
(3) 地域全体又は重点地区以外での優先的な取組	28
3. 5 島根半島西部地域で実施する取組	30
(1) 島根半島西部地域の概要	30
(2) 重点地区及び優先的な取組	31
(3) 地域全体又は重点地区以外での優先的な取組	31
3. 6 三瓶山地域で実施する取組	32
(1) 三瓶山地域の概要	32
(2) 重点地区及び優先的な取組	33
(3) 地域全体又は重点地区以外での優先的な取組	33

4	進捗評価及びプログラムの改訂.....	34
4. 1	進捗評価.....	34
4. 2	プログラムの改訂.....	34

別紙1 実施・検討する取組の一覧

別紙2 大山隠岐国立公園満喫プロジェクト地域協議会設置要綱

別紙3 大山隠岐国立公園の関係市町村一覧

別紙4 大山隠岐国立公園満喫プロジェクトに参画・賛同する機関・団体の一覧

はじめに

2016年（平成28年）3月、政府は、成長戦略と地方創生の柱として、観光を我が国の基幹産業へと成長させるべく、「明日の日本を支える観光ビジョン」を取りまとめた。環境省では、同ビジョンに基づき、日本の国立公園を世界水準の旅行の目的地とし、ブランド化を図る「国立公園満喫プロジェクト」を2016年度（平成28年度）から推進している。

大山隠岐国立公園は、他の7国立公園とともに、同プロジェクトの取組を先行的、集中的に実施する国立公園として選定され、これを受けて同年9月に、関係行政機関や地域関係者で構成される「大山隠岐国立公園満喫プロジェクト地域協議会」が設立された。地域協議会では、同年12月に、本プログラムの前身となる「大山隠岐国立公園ステップアッププログラム2020」を、2016年度（平成28年度）から2020年度（令和2年度）までの5年間を計画期間とし、具体的な取組方針を掲げるロードマップとして作成した。

以降、同プログラムに基づき、多様な主体により、200を超える実に多角的な取組が行われてきた。結果、大山隠岐国立公園を軸とした観光地域づくりが進められ、またターゲットとしていた訪日外国人旅行者も着実に増加しつつあったが、目標としていた程度よりも緩やかな増加に留まっていることや、これまでの成果や課題を踏まえて取組を発展的に持続させる必要があったことから、2020年（令和2年）2月の地域協議会において、2021年度（令和3年度）以降も大山隠岐国立公園満喫プロジェクトを継続することが合意された。

その後、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大を受けて、観光分野は未曾有の影響を被ることになった。

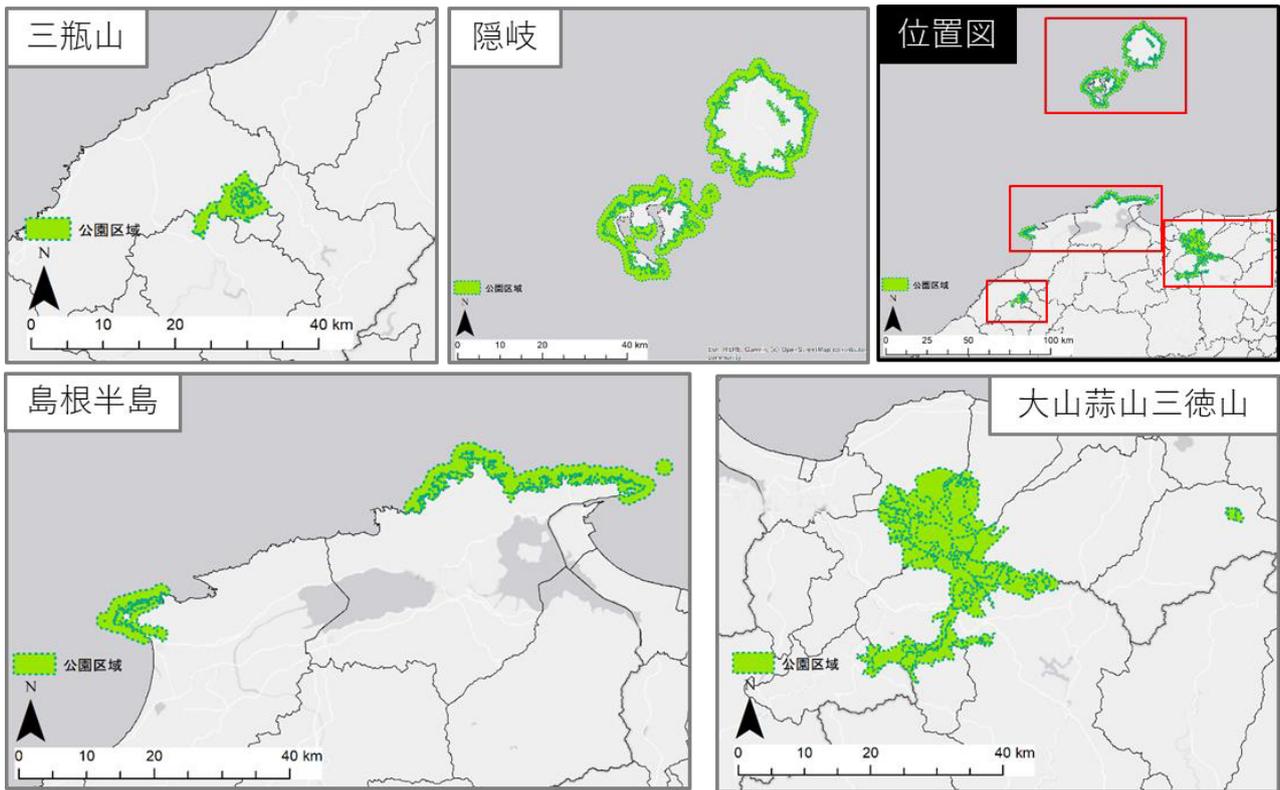
本プログラムは、こうした時勢の中、2020年度（令和2年度）に地域協議会及びその下位機関である地域部会での複数回の協議を経て作成されたものである。引き続き大山隠岐国立公園独自の魅力を高めるとともに、前身のプログラムとは異なり訪日外国人旅行者だけでなく国内旅行者もターゲットに定めた上で、国内外からの利用者を回復させることを目指している。本プログラムは、こうした目標の達成に向けて大山隠岐国立公園満喫プロジェクトに携わる全ての人にとっての、2021年度（令和3年度）から2025年度（令和7年度）までの5年間の取組の指針であり、かつ、具体的な行動計画である。

2021年（令和3年）2月策定
大山隠岐国立公園満喫プロジェクト地域協議会

1 現状分析

1. 1 大山隠岐国立公園の概要

大山隠岐国立公園は、鳥取県、島根県及び岡山県の三県にまたがり、面積は陸域と海域を合わせて69,411haに及ぶ。1936年（昭和11年）に大山地域が大山国立公園として指定され、1963年（昭和38年）に隠岐諸島、島根半島、三瓶山、蒜山地域が編入され、同時に大山隠岐国立公園へと名称が変更された。その後、2002年（平成14年）に毛無山一帯が、2014年（平成26年）に三徳山一帯が編入されている。



生物多様性センター「国立公園区域等」をもとに作成

図 1 大山隠岐国立公園の位置図

中国地方の最高峰である大山のほか、蒜山、船上山、毛無山、三瓶山等の山地部は、火山地形、森林、草原等で構成され、それぞれの環境に適応した多様な動植物が見られる。なかでも大山は歴史上最古の神山として知られ、三徳山は山岳修行の聖地とされている。

隠岐諸島や島根半島地域の海岸・島嶼部では、火山活動・地殻変動・気候変動・沖積作用・浸食作用等の要因の組合せにより形成された多彩な海岸景観が見られる。とりわけ隠岐諸島は、その地質学的な成り立ちや、独自の生態系、受け継がれてきた人の営みが評価され、ユネスコ世界ジオパークに認定されている。また、島根半島地域は、日本ジオパーク「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」として認定されている。島根半島地域には、出雲大社をはじめとする神話にまつわる名所旧跡が点在し、古くから伝わる神事が数多く執り行われている。

大山隠岐国立公園は、このように、自然と文化が融合した多彩な景観を楽しめる点が特徴となっている。これを反映して、登山、ハイキング、スキー、遊覧船からの海岸景観の鑑賞、海水浴、シーカヤッ

ク、ダイビング、キャンプ、サイクリング等の山や海での四季折々のアクティビティとともに、寺社参詣や神楽の鑑賞等の文化・歴史に触れる体験とを組み合わせた多様な利用がなされている。



図 2 大山隠岐国立公園内で行われるアクティビティの例

✓ コラム 国立公園の指定と保護管理

国立公園は、日本を代表する傑出した自然の風景地として、自然公園法に基づいて指定される。2021年（令和3年）2月現在、全国で34の国立公園が指定されている。

各国立公園は、自然環境や利用状況を考慮して、特別保護地区、第1種～第3種特別地域、海域公園地区、普通地域の6つに区分けされており、各区分に応じた規制が敷かれている。特別保護地区では原生状態を保持するため行為を厳しく制限しており、他方で普通地域は規模の大きい自然改変を規制する緩衝地帯となっている。第1種～第3種特別地域はこれらの中間的な位置づけになる。国立公園の海域は大半が普通地域であるが、一部、動植物の捕獲等を規制する海域公園地区が指定されている。

大山隠岐国立公園では、陸域 35,353ha 中、6.3%が特別保護地区、81.6%が第1種～第3種特別地域、12.1%が普通地域に指定されており、海域 34,058ha 中、0.2%が海域公園地区、99.8%が普通地域に指定されている。これらの区分けは大山隠岐国立公園の公園計画書において定められており、定期的に見直しが行われている。

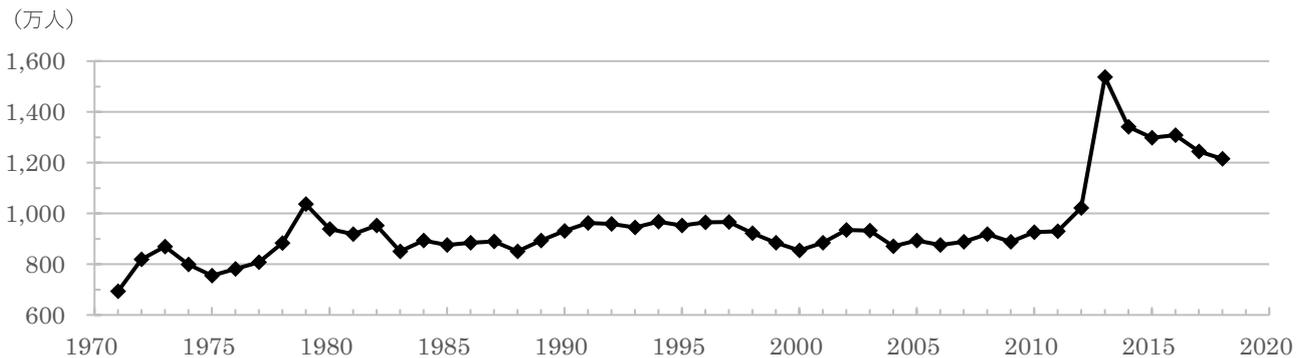
さらに、大山蒜山三徳山地域、隠岐地域、島根半島地域及び三瓶山地域のそれぞれについて、地域の実情に即したきめ細かな管理の指針として管理計画が策定されている。

1. 2 大山隠岐国立公園を訪れる利用者

(1) 全体の利用者数とアクセスの概況

1) 大山隠岐国立公園の利用者数の推移

大山隠岐国立公園の年間利用者数は中長期的には増加しているものの、2013年（平成25年）をピークにその後は微減の傾向を示している。直近のデータがある2018年（平成30年）の利用者数は1,215万人となっており、全国34国立公園の中では第9位で、国立公園全体の利用者数の3.3%を占めている。なお、近隣の瀬戸内海国立公園の同年の利用者数は第2位で4,293万人（11.6%）、山陰海岸国立公園は第14位で630万人（1.7%）となっている。



※ 環境省 自然公園等利用者数調（2018年）をもとに作成

図 3 大山隠岐国立公園の年間利用者数の推移（1971 - 2018年）

2) 国内からのアクセス

空路では、大山隠岐国立公園内の複数の地域へのアクセスが良いのは米子空港と出雲空港である。両空港とも羽田空港から定期便が1日往復5本程度就航している。出雲空港では大阪や名古屋、静岡、仙台、福岡を結ぶ定期便も就航している。このほか、隠岐空港、鳥取空港及び岡山空港も利用される。

陸路では、JRの山陰本線や伯備線等を経由する特別急行列車や各路線の普通列車、私鉄の一畑電車が利用される。また、米子駅、松江駅、出雲市駅等を発着する高速バス網も発達している。乗用車等による主要なアクセス路線としては山陰自動車道（E9）、米子自動車道（E73）、松江自動車道（E54）等の高速道路が挙げられる。

海路では、本土の境港及び七類港と隠岐4島を結ぶ定期船（高速船及びフェリー）と、隠岐の島前地域の3島間を結ぶ内航船が就航している。

3) 海外からのアクセス

空路では、羽田空港等で国際線から国内線に乗り継がれるか、香港及び上海から米子空港への定期便が利用される。香港・米子便は2017年（平成29年）12月以降週3便、上海・米子便は2020年1月の就航以来週2便が運行されていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、両便とも2020年（令和2年）2月から運休している。また、出雲空港では国際チャーター便誘致の取組が進められており、これまでに台湾やソウル等との間での運行実績がある。

海路では、年間を通して海外からのクルーズ船が境港に寄港する。ただし、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、2020年（令和2年）1月以降、クルーズ船は境港に寄港していない。

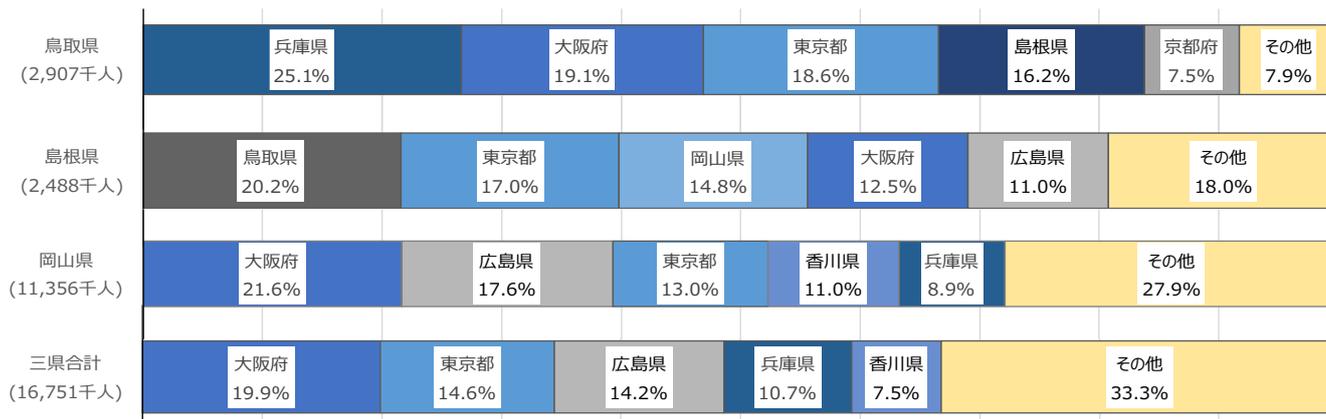
このほか、首都圏や関西圏等、他の地域を拠点に日本に中長期滞在し、その一部の期間を過ごすため、2)に記載の手段で大山隠岐国立公園を訪問する海外からの旅行者が相当数いると考えられる。

なお、日韓関係の影響を受けて、週6便運行されていた米子・仁川（ソウル）空港間の定期便は2019年10月から運行を休止しており、境港・東海（韓国）・ウラジオストク（ロシア）を結ぶ定期船は2019年11月から運行を停止した後、廃止に至っている。

（2）日本人利用者の概況

1）3県への旅行者の来訪の概況

2018年度（平成30年度）に、自家用車以外での交通手段（鉄道、定期航空、乗合・貸切バス等）によって、県外から鳥取県、島根県、岡山県を訪れた旅行者の出発地となった都道府県の構成は下図のとおりである。3県とも、近畿地方及び中国地方からの旅行者の合計が半数近く又は過半数に上るとともに、東京都からの来訪が1～2割を占めている。

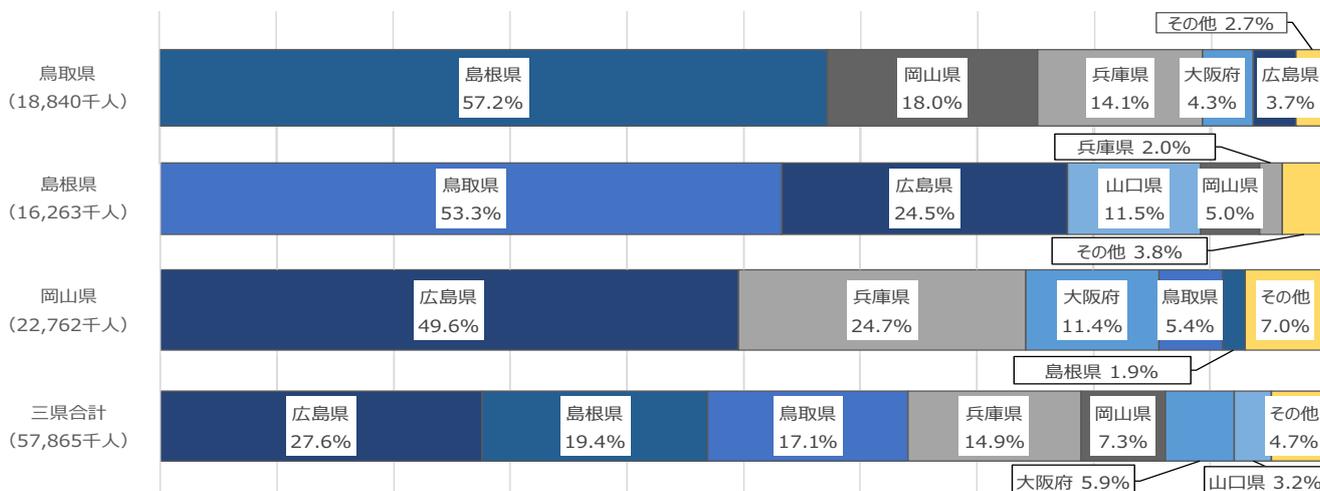


※ 国土交通省 旅客地域流動調査（2018年度）をもとに作成。

県外から到着する鉄道（定期利用を除く）、乗合・貸切バス等の営業車両、定期航空等のデータを利用。

図 4 鳥取県、島根県、岡山県に到着した旅行者数と出発地の構成（2018年度）

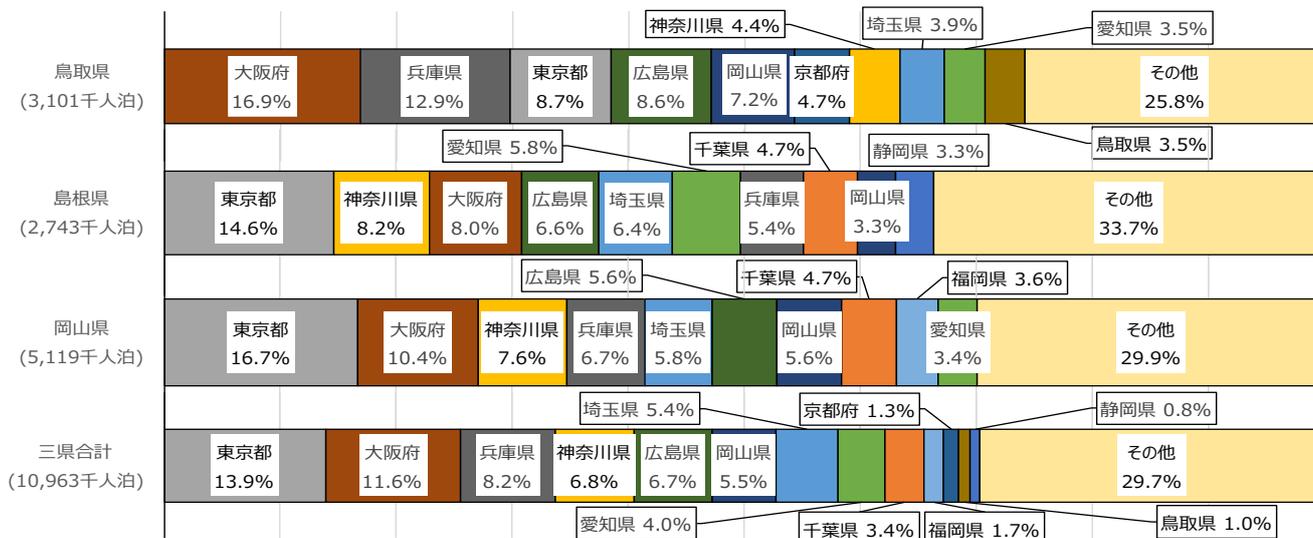
一方で、第6回（2015年度）全国幹線旅客純流動調査（国土交通省）のデータを用いて、県外から鳥取県、島根県、岡山県を訪れた旅行者の使用した交通手段別の割合を算出したところ、自家用車やタクシーの割合が約8割に上り、鉄道、航空、幹線バスがこれに続く結果となった。自家用車やタクシーによる場合の、県外から3県それぞれへの旅行者の出発地となった都道府県の構成は図3のとおりで、隣県からの来訪の比率が高くなっている。



※ 国土交通省 第6回全国幹線旅客純流動調査をもとに作成（都道府県間流動表・居住地から旅行先・年間・代表交通機関：乗用車等）

図 5 鳥取県、島根県、岡山県に乘用车等で到着した旅行者数と出発地の構成（2018年度）

また、2018年に、鳥取県、島根県、岡山県に宿泊した日本人の延べ宿泊者数と、宿泊者の居住する都道府県の構成は下図のとおりで、宿泊旅行の主要なマーケットは首都圏、近畿地方、そして中国地方であることが示唆される。



※ 観光予測プラットフォーム推進協議会 観光予測プラットフォーム（2018年）をもとに作成。
RESASより3県分データを出力し、各県に到着した旅客の出発地 上位10都道府県まで表示

図6 鳥取県、島根県、岡山県の日本人延べ宿泊者数と居住都道府県（2018年度）

2) 大山隠岐国立公園での滞在の概況、満足度

満喫プロジェクトを推進する先行8公園の訪問者を対象として、2019年度中に実施されたアンケート調査の結果（日本人回答数216票）から、大山隠岐国立公園における利用・滞在の状況を概観する。なお、公園間で調査地点の設定や回答数に差異があることから、各公園の結果を同列に比較することはできず、以下で示している8公園の平均値も一つの目安に過ぎないことに留意する必要がある。

大山隠岐国立公園を訪問した日本人の平均宿泊数は、公園内では0.7泊/人、公園周辺地域を含めると1.6泊/人と、8公園の平均値（それぞれ1.1泊/人、1.9泊/人）と比較していずれも短い傾向がみられた。一人あたりの消費総額は32,392円となり、8公園の平均値よりも約4,500円高く、個別の費目においては交通費が平均値よりも高い一方で、自然体験・アクティビティ費は平均値の半分以下の711円/人となった。訪問回数が2回目以上であるリピーターの割合は46.4%となり、8公園の平均値を11ポイント下回った。

満足度については、7段階評価（最大7点～最低1点）で、大山隠岐国立公園での滞在全体に対する総合評価は5.61となり、肯定的な評価ではあったものの、8公園の平均値（5.91）よりもやや下回った。項目別の満足度も全体的に平均値を下回る結果となり、特に、宿泊施設、移動・交通、案内板・標識、遊歩道・展望台の4項目に対する評価が低かった。一方で、現地ツアー・プログラム、ビジターセンター等での情報提供の2項目については平均値を上回った。

宿泊数や自然体験・アクティビティ費の支出が比較的少ない傾向が見られることから、体験ツアー等を活用して滞在型観光を楽しむ利用者は、未だ少数派であることが想定される。他方で、満足度評価では、現地ツアー・プログラムの項目で比較的高い評価を得ていることから、質の高い体験ツアー等の提供を更に進めることで、大山隠岐国立公園における滞在全体の満足度向上や、滞在日数の延伸等につながることを期待される。あわせて、交通費の支出が大きい一方で、移動・交通に関する満足度が低い傾

向を踏まえ、広域に分布する大山隠岐国立公園内の移動にあたって生じる金銭的負担や心理的ストレスを軽減できる二次交通の整備・拡充や、さらに踏み込んで移動そのものが何らかの体験価値を生み出すような取組が求められる。

(3) 外国人利用者の概況

1) 大山隠岐国立公園の訪日外国人利用者数の推移

大山隠岐国立公園では、複数手法を用いて、2015年から2019年分まで訪日外国人利用者数の推計を行っている。一つは全国の34国立公園について推計している環境省「国立公園別訪日外国人利用者数推計値」であり、下表において手法1としている。ただし、この手法については、山陰地方の空港が調査対象となっておらずサンプル数が少ないことから、大山隠岐国立公園については実際の利用実態をあまり反映していないと考えられる。このため、手法2及び3として、観光庁「宿泊旅行統計調査」をもとに算出した大山隠岐国立公園の区域が含まれる18市町村（別紙3参照）や宿泊拠点となるその他の山陰及び山陽地方の市町村における外国人宿泊者数推計値や、境港へのクルーズ船寄港者数等を用いた推計を行っている。

手法間で数値や増減傾向等の違いがあるものの、2019年の外国人利用者数は手法1で2015年比2倍、手法2で1.5倍、手法3で1.6倍に増加している。特に、より実態を反映していると考えられる手法2及び3の結果からは、堅調な増加傾向が示されている。ただし、2020年については、推計結果はまだ出ていないものの、新型コロナウイルス感染症の影響によって外国人利用者数は激減しているとみられる。

表 1 大山隠岐国立公園の訪日外国人利用者数の推移（単位：人）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
手法1：「国立公園別訪日外国人利用者数推計値」（実利用者数）	5,954	13,904	10,951	4,706 ^{※1}	11,870
手法2：公園区域が含まれる市町村及び近接する9市町 ^{※2} の宿泊者数推計値、クルーズ船寄港者数 ^{※3} を用いた推計値	106,543	104,917	126,305	147,344	158,928
手法3：公園区域内での宿泊者数推計値、山陰・山陽地方の23市町村 ^{※4} で公園区域外での宿泊者数推計値に公園訪問比率 ^{※5} を乗じた値、クルーズ船寄港者数 ^{※3} を用いた推計値	155,301	188,568	230,289	286,429	255,189

※1 サンプル数が少なく信頼性が低いため、参考値とされている。

※2 米子市、境港市、南部町、日南町、北栄町、湯梨浜町、安来市、雲南市、奥出雲町。

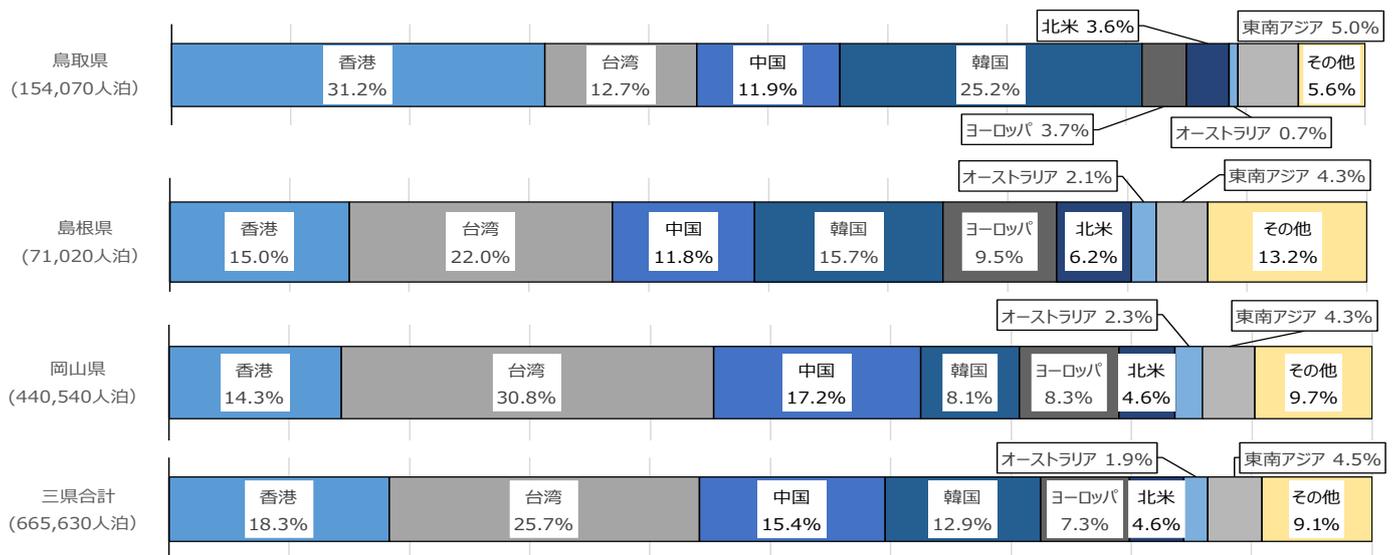
※3 境港へのクルーズ船寄港者のうち大山隠岐国立公園への日帰り利用者数を用いている。

※4 大山隠岐国立公園の区域が含まれる18市町村と、米子市、鳥取市、岡山市、倉敷市、広島市。

※5 77.5%。2017年度（H29年度）に米子市、松江市、出雲市等の山陰地域主要都市の外国人宿泊者（422名）にアンケート調査を行い、大山隠岐国立公園への訪問率を算出したもの。

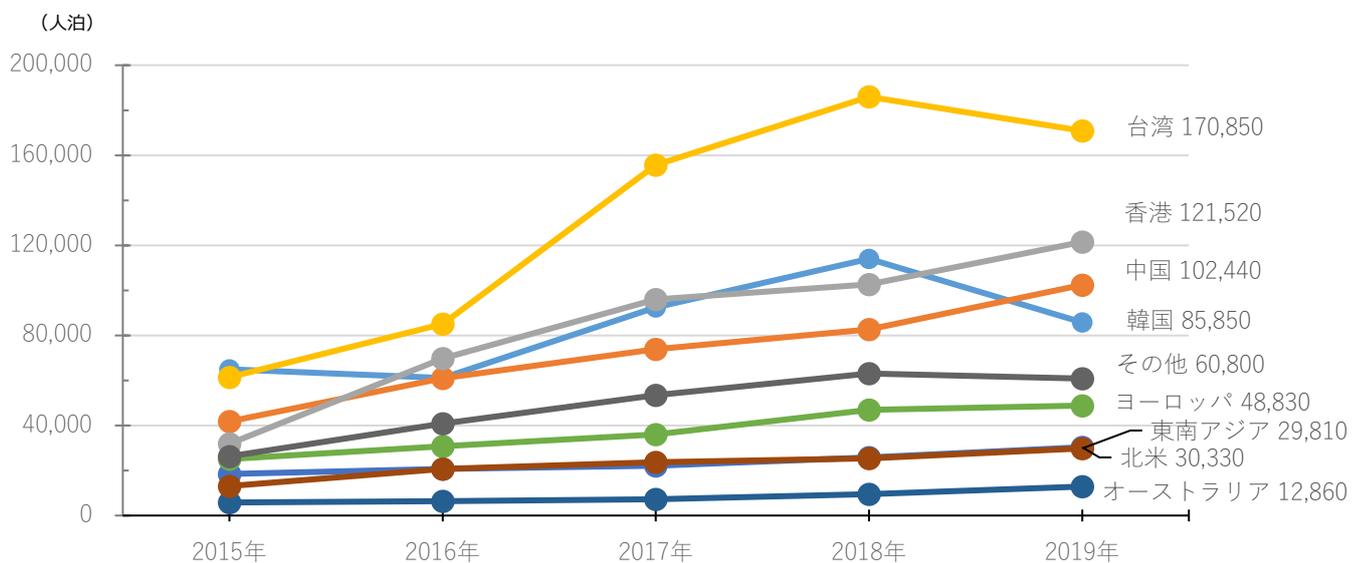
2) 3県への旅行者の来訪の概況

2019年（令和元年）の鳥取県、島根県、岡山県における外国人延べ宿泊者数推計値と、国・地域別の構成は図7のとおりである。香港、台湾、中国及び韓国からの旅行者で6割から8割を占め、次いで欧米豪（北米、ヨーロッパ、オセアニア）が合わせて1～2割、東南アジアが5%前後となっている。また、2015年（平成27年）から2019年（令和元年）までの推移では、特に香港（3.8倍）及び台湾（2.8倍）からの旅行者数が顕著に伸びている。



※ 観光庁 宿泊旅行統計調査（平成 31 年 1 月 - 令和元年 12 月）確定値をもとに作成

図 7 鳥取県、島根県、岡山県の外国人宿泊者数推計値と国・地域別構成比（2019 年）



※ 観光庁 宿泊旅行統計調査 各年確定値の参考第 1 表をもとに作成。

図 8 鳥取県、島根県、岡山県の外国人宿泊者数推計値の推移（2015 - 2019 年）

3) 大山隠岐国立公園での滞在の概況、満足度

日本人利用者の概況と同様に、満喫プロジェクトを推進する先行 8 公園の訪問者を対象として、2019 年度中に実施されたアンケート調査の結果のうち、外国人による回答（106 票）に基づき、大山隠岐国立公園における利用・滞在の状況を概観する。なお、公園間で調査地点の設定や回答数に差異があることから、各公園の結果を同列に比較することはできず、以下で示している 8 公園の平均値も一つの目安に過ぎないことに留意する必要がある。

大山隠岐国立公園を訪問した外国人の平均宿泊数は、公園内では 0.8 泊/人、公園周辺地域を含めると 3.3 泊/人と、8 公園の平均値（それぞれ 1.4 泊/人、3.4 泊/人）と比較していずれも短い傾向がみられた。一人あたりの消費総額は 85,957 円となり、8 公園の平均値と比較して約 21,000 円高く、個別の費目においては宿泊費、飲食費、交通費、買物費が平均値よりも高い一方で、自然体験・アクティビ

ティ費は1,353円で平均値を約1,000円下回った。訪問回数が2回目以上であるリピーターの割合は7.4%と、8公園の平均値を約6ポイント下回った。

満足度については、7段階評価（最大7点～最低1点）で、大山隠岐国立公園での滞在全体に対する総合評価は5.87となり、肯定的な評価ではあったものの、8公園の平均値（6.22）を下回った。項目別の満足度は全体的に平均値よりも低く、特に宿泊施設、移動・交通、お土産、現地ツアー・プログラム、外国語表記、外国語対応の6項目に対する評価が低く、自由記載でも交通手段・案内の不足についての意見が多かった。一方で、自然景観については、比較的高い評価となった。

消費額が大きかったにもかかわらず宿泊施設や移動・交通、お土産に対する満足度や、外国語表記・対応に対する満足度が低かったこと、他方で、自然景観に対する満足度が比較的高かったことから、引き続き多角的に受入環境整備を進めることで、自然景観が資源としてより活かされ、滞在全体としての満足度やリピーター率の向上につながるものと思われる。また、宿泊数の違いを考慮しても、日本人利用者と比べて、外国人利用者は宿泊費、飲食費、買物費の支出が顕著に大きいことから、高質な滞在環境や体験を希求し、かつ、そうした価値に対して相応の支出を行う傾向があると考えられるため、受入環境整備を進めるにあたっては、この点を考慮すべきである。さらに、日本人利用者と同様に自然体験・アクティビティ費の支出が少なかったことに加えて、現地ツアー・プログラムへの満足度が低かったことから、外国人向けの体験ツアー等の提供の充実と磨き上げを並行して進めることが求められる。

1. 3 ステップアッププログラム 2020 の達成状況及び本プログラムへの継続性

(1) ステップアッププログラム 2020 の概要

本プログラムの前身となる「大山隠岐国立公園ステップアッププログラム 2020」（以下、「ステップアッププログラム 2020」という。）は、2016 年度（平成 28 年度）から 2020 年度（令和 2 年度）までの 5 年間に計画期間とし、「大山隠岐国立公園における 2020 年（令和 2 年）の訪日外国人利用者数を 2015 年（平成 27 年）の 2.5 倍にする」ことを全体の目標として掲げていた。2016 年（平成 28 年）12 月に策定され、以降約 1 年毎に取組の実施状況を踏まえた改訂が行われ、最終改訂は 2020 年（令和 2 年）2 月に行われている。最終改訂時点で、国立公園全域及び各地域における個別の取組目標を計 272 項目（検討 49 項目、実施 223 項目）掲げていた。全体の目標については大山隠岐国立公園における訪日外国人利用者数や、外国人対応ツアー・プログラム数、外国人利用者満足度を指標として評価を行うとともに、個別の取組目標については実施状況や課題等を整理することで、ステップアッププログラム 2020 の達成状況を測ることとしていた。

(2) ステップアッププログラム 2020 の達成状況及び本プログラムへの継続性

全体の目標としていた訪日外国人利用者数については、上述のとおり（1. 2（3）1）参照）、2019 年（令和元年）の推計値は、2015 年（平成 27 年）比で 1.5 倍～2 倍と増加傾向にあったが、目標年とされていた 2020 年（令和 2 年）は新型コロナウイルス感染症の影響によって訪日外国人利用者が激減したため、目標としていた 2.5 倍には届かなかった。

大山隠岐国立公園及び周辺地域における外国人対応ツアー・プログラム数は、2017 年度（平成 29 年度）時点では 6 であったが、2020 年度（令和 2 年度）時点では 29 に倍増した。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響により催行を休止しているものも少なくない。

外国人利用者満足度については、上述のとおり（1. 2（3）3）参照）、肯定的な評価であったものの、満喫プロジェクトを推進する先行 8 公園の平均値よりも下回る結果となった。

個別の取組目標の達成状況は下図のとおりで、検討・実施予定の段階に留まっているごく一部のものを除いて進展があり、全体の半分弱にあたる 125 項目は完了に至った（コラム参照）。検討・実施予定及び検討・実施中の段階にあるほとんどの項目と、検討・実施が終了した項目の一部は、これまでの進捗や成果、課題を踏まえて、継続的又は発展的な形で、本プログラムに引き継がれることになっている。相互に関連する取組を統合する等の整理を行った結果、本プログラムに引き継がれる項目数は計 121 となっている。これらを含め、本プログラム下で実施予定の取組の詳細については後述する（3、及び別紙 1 参照）。

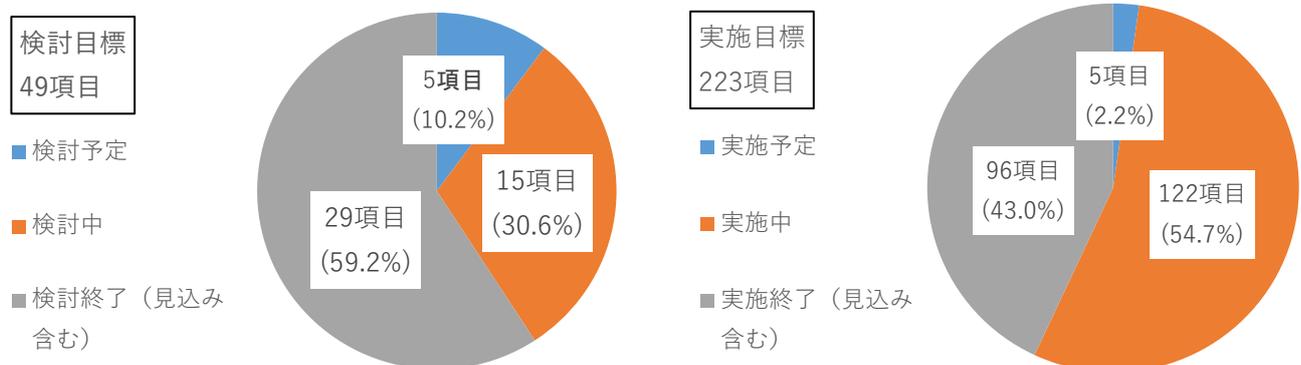


図 9 ステップアッププログラム 2020 に掲げられていた個別の取組目標の達成状況